

島田市長 染谷絹代

持続可能で豊かさを実感できる
都市として生き抜くために――

これまで2期8年、市長として防災・医療・福祉・子育て・教育・経済・環境・歴史文化・そして都市基盤と、さまざまな分野で「笑顔あふれる安心のまち島田」の実現に向けて、市政を運営してまいりました。

3期目の4年間は、これまでの実績と経験を生かし、果敢に「人口減少」に立ち向かい、強靱で「安全・安心」なまちを、快適で豊かな「暮らしの充実」を実感できる持続可能なまちを、総力を挙げて創ってまいります。

今後、謙虚にかつ初心を貫き、市民の皆さまのために、また島田の未来のために、不退転の決意で挑戦してまいります所存です。



Mayor
Kinuyo Someya

On

氏名／染谷絹代（そめやきぬよ）
生年月日／昭和 29 年 7 月 5 日（67 歳）
出身／福島県、島田市在住 30 年
経歴／市教育委員会委員長、県男女共同参画センター理事、文科省中央教育審議会臨時委員、厚労省中央社会保険医療協議会委員など
座右の銘／「春風秋霜」^{しゅんぷうしゅうそう}「初志貫徹」「誠心誠意」



Off

ニックネーム／そめちゃん

好きな食べ物／白いご飯と焼き塩鮭、フルーツ

特技／インドネシア語

趣味／ドライブ、読書

高校生時代の思い出／古典と歴史が得意だったが

スポーツは苦手、映画鑑賞と読書と友人との雑談が大好きで、学生運動にも興味津々

就任のごあいさつ

しなやかに順応した施策で、新たな未来を切り開く

新型コロナウイルス感染症の拡大がもたらした価値観の変化、日進月歩で進化するデジタル技術、全ての団塊の世代が後期高齢者となる2025年の到来、脱炭素社会の実現に向けた取り組みの加速化など、さまざまな変化が絶え間なく押し寄せる現在、前例踏襲やこれまでの成功体験は通用しません。変わりゆく時代の変容に、しなやかに順応した施策を打ち、新たな未来を切り拓いてまいります。

デジタルトランスフォーメーションの推進による市民生活の利便性の向上や、文化や国籍・性別・障害の有無といった違いを互いに認め合い、支え合う「共生社会」の実現、さらに自然環境の保全と環境負荷の低減といった、次の世代につながる施策を戦略的に、かつ積極的に打ち出すことで、まちの価値を高めてまいります。

「コロナに打ち勝つとともに、「命の水」と自然を守り抜く

現在、新型コロナウイルス感染症対策の決め手であるワクチン接種について、医療関係

者の皆さまの協力をいただきながら、一日でも早く、一人でも多くの市民の方に接種していただけるよう、進めているところです。並行して、新型コロナウイルスの収束をにらみながら、落ち込んだ経済の回復を図らなければなりません。

市役所新庁舎の建設、旧金谷庁舎跡地における生活交流拠点の整備、旧金谷中学校跡地の活用、新東名島田金谷インターチェンジ周辺における企業誘致など、私が具体的にアクションを起こした事業にも、まだ道半ばのものがあります。

これらを、この4年間で確実に実現し、島田の未来を切り拓くエンジンとしてまいります。そして、リニア中央新幹線トンネル工事に伴う大井川の水資源と自然環境の保全についても、これまでの経緯を踏まえた上で、しっかりと「命の水」を守ってまいります。

戦略的な縮充を進め、次世代に元氣な島田を引き継ぐ

島田市を次の世代につなぐのは、現在を生きる私たちの責務です。島田市を、持続可能なまちとして次の世代につなげるために、ポストコロナを見据えた戦略的な「縮充」のま

人口減少に起因する緩やかな下降線を予想させる社会経済情勢にあっても、市民の幸福度を上げていくために第2次総合計画で打ち出した、量から質への転換を図ってまいります。施策のスクラップ・アンド・ビルドの徹底や公共施設のあり方の見直しといった改革を進めることで、このまちに住んでいて良かったという満足感と、次の世代に活力あるまちを引き継ぐことを両立してまいります。

未来の島田のため、対話と連携と協働で選択していく

私はこの8年間、市民の皆さまと信頼関係を紡いでまいりました。そして、さらに強固な信頼関係を築いていきたい、そう思っております。時に痛みも伴う「縮充」の改革には、互いに尊重し、信頼できる関係性が必要です。

「10年先、20年先の島田のために、現在、何を選択するのか」私たちの選択に島田の未来がかかっています。市民の皆さまと対話して、連携して、協働して、覚悟を持って選択しなければなりません。ぜひとも、これまで以上に深いご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



3期目初登庁



当選証書付与式



FM 島田「市長と語ろう」